

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
心理学	1	和田 裕一	通年	4 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
心理学は、人間の多様な心の働きや行動の特性を科学的な視点から理解することを目的とする学問領域です。この講義では、われわれが外界の情報をどのようにして受け入れ、処理し、行動に結びつけていくのかといった「心」のはたらきに 関係する心理過程に着目し、この問題をメインテーマとして扱う認知心理学のトピックを中心に概観します。				
【到達目標】				
知覚や記憶、学習、感情、対人行動など、様々な「心」の働きに関する基礎的な知識を学習するとともに、これらの事項 が関係する心理学的な諸現象をデモンストレーションや簡易実験を通して体験し、さらなる理解を深めることを目標と します。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付 する。		毎回の学習内容の復習。授業内容によっては心理学実験演習 への協力が求められる場合がある。		
回	概 要	回	概 要	
1	イントロダクション -心理学とは-	16	情報の符号化と記憶 -記憶の検索と忘却-	
2	脳の構造と機能 -大脳の基本構造・機能局在-	17	情報の符号化と記憶 -意味記憶 その1-	
3	脳の構造と機能 -大脳半球の機能差-	18	情報の符号化と記憶 -意味記憶 その2-	
4	視知覚のメカニズムと基本的特性 -網膜レベルの処 理-	19	高次の認知機能 -心的イメージ-	
5	視知覚のメカニズムと基本的特性 -視覚情報処理経 路その1-	20	高次の認知機能 -思考：古典的な思考研究-	
6	視知覚のメカニズムと基本的特性 -視覚情報処理経 路その2-	21	高次の認知機能 -思考：認知心理学的アプローチ-	
7	知覚の統合作用 -その1-	22	高次の認知機能 -思考：推論と類推-	
8	知覚の統合作用 -その2-	23	高次の認知機能 -知能：知能の定義と知能検査-	
9	情報の符号化と記憶 -感覚記憶-	24	高次の認知機能 -知能：遺伝か環境か-	
10	情報の符号化と記憶 -注意による情報選択その1-	25	高次の認知機能 -知能と創造性の関係-	
11	情報の符号化と記憶 -注意による情報選択その2-	26	高次の認知機能 -言語の脳内基盤-	
12	情報の符号化と記憶 -短期記憶と情報の符号化-	27	高次の認知機能 -言語の獲得：その1-	
13	情報の符号化と記憶 -ワーキングメモリ-	28	高次の認知機能 -言語の獲得：その2-	
14	情報の符号化と記憶 -エピソード記憶-	29	高次の認知機能 -認知と感情-	
15	前期の学習範囲の総括	30	後期の学習範囲の総括	
【評価方法】				
前期・後期の期末試験の得点ならびに授業参加態度等に基づいて総合的に評価する。詳細は初回の授業の際に説明する。				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
社会学	1	郭基煥	前期	2 (30)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
現代社会の構造的特徴や社会問題を近代化のプロセスの中に位置付けて、広い視野の中で理解するセンスを磨くことを授業の目的とする。基本的にはテキスト「基礎社会学」の各項目に従い、「家族」「都市」「学歴社会」などを取り扱う。				
【到達目標】				
①新聞などのメディアで報道されている社会問題についてその背景にまで踏み込んで理解できるようにすること。②個人が抱えるプライベートな問題を現代社会の社会的構造の中で位置づけて、反省的に理解できるようにすること。③より望ましい社会について自分なりの考えを持ち、それを自分なりの方法で模索できるようにすること。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
「基礎社会学」（世界思想社）				
回	概 要	回	概 要	
1	家族の歴史的変化	16		
2	産業化と家族	17		
3	現代社会における家族	18		
4	家族と文化的ステレオタイプ	19		
5	都市的な体験	20		
6	都市の外部依存性	21		
7	都市の多様性	22		
8	学歴と社会	23		
9	学歴社会の成立	24		
10	機能主義的説明と学歴	25		
11	葛藤理論と学歴	26		
12	労働の変容	27		
13	賃金労働の現在と未来	28		
14	社会学的逸脱論	29		
15	社会的構築手技	30		
【評価方法】				
最後の授業で行うテスト（100％）				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
生物学	1	阿部 憲之	通年	4 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
人間は生物の一種である。本講義では、生物としての「人間」について、人体のつくりや生きていくための機構を学ぶ。原子、分子、高分子等、生物学を学ぶために必要な化学的知識や、細胞、組織、器官の構造や働きを、高校時に履修した「生物基礎」、「生物」の内容を踏まえて理解していく。そして、柔道整復師として必要な「解剖学」や「生理学」など専門科目の理解する基本的な知識を習得する。				
【到達目標】				
生物学の基礎を学び、解剖学、生理学を理解するための基礎的学力を身に着ける。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
基本はプリントを使用 生理学・生化学につながるていねいな生物学（羊土社）		授業前に教科書をよみ、授業内容を確認すること。		
回	概 要	回	概 要	
1	オリエンテーション、原子と分子	16	神経系	
2	物質の移動、人を構成する物質	17	神経系	
3	人を構成する物質	18	消化・吸収	
4	人を構成する物質	19	消化・吸収	
5	細胞小器官の機能と遺伝情報の発現	20	筋	
6	細胞小器官の機能と遺伝情報の発現	21	筋	
7	細胞小器官の機能と遺伝情報の発現	22	循環系	
8	栄養素の利用	23	循環系	
9	栄養素の利用	24	呼吸器	
10	血液と免疫	25	呼吸器	
11	血液と免疫	26	ホルモンによる生理機能の調節	
12	血液と免疫	27	ホルモンによる生理機能の調節	
13	神経の構造と機能	28	ホルモンによる生理機能の調節	
14	神経の構造と機能	29	腎臓と肝臓	
15	神経の構造と機能	30	腎臓と肝臓	
【評価方法】				
前期・後期の定期試験、中間試験、出席状況、授業態度で行う。				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
英語	1	相田 明子	通年	4 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
英語の基礎力を復習しながら、医療英語の習得へと応用範囲を広げる。				
外国語の学習を通して異文化を理解し、他者との共生について考える機会とする。				
【到達目標】				
①中学校・高等学校で学んだ英語の基礎を復習する。②医療現場で使われる英語表現を習得する。				
③外国語の学習を通して異文化を理解する力を身につける。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
Introduction to Medical English(松柏社)		語彙力を増やすための単語試験の準備など		
回	概 要	回	概 要	
1	授業のIntroduction. 「医療英語」について。	16	術前・述語	
2	受診の予約	17	術前・述語	
3	受診の予約	18	練習問題とリスニング	
4	練習問題とリスニング	19	待合室での会話	
5	受診	20	待合室での会話	
6	受診	21	練習問題とリスニング	
7	練習問題とリスニング	22	清拭	
8	問診・医師による診察	23	清拭	
9	問診・医師による診察	24	練習問題とリスニング	
10	練習問題とリスニング	25	リハビリ	
11	薬の服用	26	リハビリ	
12	薬の服用	27	練習問題とリスニング	
13	練習問題とリスニング	28	回復・退院許可	
14	前期で学んだ語彙・表現についてまとめ	29	練習問題とリスニング	
15	前期で学んだ英語表現についてまとめ	30	後期のまとめ	
【評価方法】				
中間試験、期末試験の結果による。				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
解剖学Ⅰ		1	舟山 真人	通年	2（60）
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
1年次では細胞構造、骨・関節、筋肉の構造を学習する。これらは同時に学ぶ柔道整復学、運動学、整形外科学など、他の科目を理解する上でも必要不可欠なものである。覚えることが多く、日々の積み重ねが大事である。					
【到達目標】					
骨や関節の構造的特徴を理解できる。主要な筋肉の起始・停止、作用を言える（一部の筋肉は支配神経も覚えたい）。なお、項目の終わりに国家試験に準じた4択問題を解く訓練にも時間をかけるので、授業に真面目に取り組めば、類似問題が出されても、正解へ導くことができる。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
解剖学改訂第2版を参考とした穴埋式プリントを用いる			試験前にはプリントの穴埋個所をすべて答えられるようにしておく		
回	概 要		回	概 要	
1	1. 解剖学概説		16	2. 運動器系 C. 筋肉	
2	1. 解剖学概説		17	2. 運動器系 D. 頭部/ E. 頸部（筋学）	
3	1. 解剖学概説		18	2. 運動器系 F. 体幹（筋学）	
4	2. 運動器系 A. 骨/ B.骨の連結		19	2. 運動器系 F. 体幹（筋学）	
5	2. 運動器系 A. 骨/ B.骨の連結		20	2. 運動器系 G. 上肢（筋学）	
6	2. 運動器系 A. 骨/ B.骨の連結		21	2. 運動器系 G. 上肢（筋学）	
7	2. 運動器系 F. 体幹（骨学）		22	2. 運動器系 G. 上肢（筋学）	
8	2. 運動器系 F. 体幹（骨学）		23	2. 運動器系 G. 上肢（筋学）	
9	2. 運動器系 G. 上肢（骨学）		24	2. 運動器系 G. 上肢（筋学）	
10	2. 運動器系 G. 上肢（骨学）		25	2. 運動器系 H. 下肢（筋学）	
11	2. 運動器系 H. 下肢（骨学）		26	2. 運動器系 H. 下肢（筋学）	
12	2. 運動器系 H. 下肢（骨学）		27	2. 運動器系 H. 下肢（筋学）	
13	2. 運動器系 H. 下肢（骨学）		28	2. 運動器系 H. 下肢（筋学）	
14	2. 運動器系 D. 頭部（骨学）		29	2. 運動器系 H. 下肢（筋学）	
15	2. 運動器系 D. 頭部（頭蓋骨実習: 小坂非常勤講師担当）		30	解剖学Ⅰ まとめ（学年末定期試験解説）	
【評価方法】					
前期・後期の中間・期末試験によって行う（事前に簡単なアナウンスは行うが4肢択一以外の問題が出ることもある。）。					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
生理学Ⅰ	1	佐藤 聡子	通年	2（60）
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
柔道整復師として必要な、身体の機能・機序を幅広く理解する。1 学年では特に詳細な解剖学的知識は必要としない生体物質に関する学習から始まり、さらに他教科の理解の基礎となる血液、体液、栄養、神経、および筋の基本的生理作用を学んでいくこととする。特に、機序の理解に欠かせない、「何がどうすればどうなる」という生理学的類推力を培うことに重点を置いて学習を進めていく。				
【到達目標】				
◎ 細胞の構造と細胞内小器官の機能を概説できる。 ◎ 生体膜を介した物質の移動について説明できる。 ◎ 生体内の細胞外液・細胞内液の組成と機能、その維持の機序について説明できる。 ◎ 生理学の基礎となる無機・有機化合物の名称を列挙でき、またその特徴を概説できる。 ◎ 体内に摂取された栄養素の中間代謝とエネルギー代謝について説明できる。 ◎ 血液の機能と性質について説明できる。		◎ 膜電位および活動電位発生の機序について説明できる。 ◎ 興奮性細胞における活動電位の伝導と伝達の機序について説明できる。 ◎ 神経系の区分に応じたそれぞれの構成と特徴を説明できる。 ◎ 脳の高次機能について説明できる。 ◎ 内臓機能の自律神経系による調節について説明できる。 ◎ 筋細胞の興奮と収縮の機序について説明できる。		
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
教科書： 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）		次時予告に従い教科書に目を通しておく。 また授業時の確認テストを復習に活用する。		
回	概 要	回	概 要	
1	1. 生理学とは	16	3. 神経の生理	
2	1. 生理学とは	17	3. 神経の生理	
3	1. 生理学とは	18	3. 神経の生理	
4	1. 生理学とは	19	3. 神経の生理	
5	1 3. 栄養と代謝	20	3. 神経の生理	
6	1 3. 栄養と代謝	21	3. 神経の生理	
7	1 3. 栄養と代謝	22	3. 神経の生理	
8	1 3. 栄養と代謝	23	3. 神経の生理	
9	8. 血液	24	3. 神経の生理	
10	8. 血液	25	2. 筋肉の生理	
11	8. 血液	26	2. 筋肉の生理	
12	8. 血液	27	2. 筋肉の生理	
13	8. 血液	28	2. 筋肉の生理	
14	前期授業内容総復習	29	後期授業内容総復習	
15	前期定期試験解説	30	後期定期試験解説	
【評価方法】				
前期・後期の定期試験、中間試験、出席状況、授業態度で行う。				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
病理学		1	塩谷 誠章	通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
スライドを用いて授業を行う。毎回、授業終了前に国試の過去問を解いてもらった後解説する。					
【到達目標】					
おもに病気になった際の細胞、組織、臓器の形態変化に関し学習する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
病理学概論 改定第3版			特になし		
回	概 要		回	概 要	
1	病理学的検査		16	炎 症	
2	病気に関する用語		17	炎 症	
3	退行性病変		18	炎 症	
4	退行性病変		19	腫 瘍	
5	代謝障害		20	腫 瘍	
6	代謝障害		21	腫 瘍	
7	前期中間試験 解説		22	腫 瘍	
8	進行性病変		23	後期中間試験 解説	
9	進行性病変		24	病因(内因)	
10	循環障害		25	病因(内因)	
11	循環障害		26	病因(内因)	
12	循環障害		27	病因(内因)	
13	循環障害		28	先天性疾患	
14	前期試験 前講義		29	先天性疾患	
15	炎 症		30	後期試験 前講義	
【評価方法】					
前期中間試験、前期試験、後期中間試験、後期試験をもって評価する。					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
職業倫理	1	島谷 タ美	前期	1 (15)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
医療人という人間関係において生じる諸問題を解決する為に医療現場に起こるだろうと思われる事例を 挙げながら、医療倫理を身につけさせたい。				
【到達目標】				
柔道整復師として、人々の健康づくりに携わる医療人として、求められる知識や教養、倫理の習得を目標とする。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）		復習すること：自分の考えをまとめる		
回	概 要	回	概 要	
1	医療従事者の職業倫理とは	16		
2	医療倫理の歴史	17		
3	医療裁判について、医療訴訟、インフォームドコンセント	18		
4	医療事故、医療過誤、ヒヤリハット	19		
5	医療従事者における守秘義務	20		
6	医療安全と柔道整復師	21		
7	施術所においての事例をもとにグループ・ディスカッション	22		
8	個人情報保護	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
【評価方法】				
評価は筆記試験				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔道実技Ⅰ		1	大久保 貴博	後期	1 (30)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院(2004年4月～2019年3月)、おおくぼ整骨院(2019年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)					
柔道の理念、歴史を理解する。道着の着方、作法、礼法、受身、投げの方の習得する。					
【到達目標】					
礼法、受け身、投げ形（浮落、背負投）の習得					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
回	概 要		回	概 要	
1	柔道着の着方、礼法、後ろ受け身、横受け身、前方回転受け身		16		
2	柔道着の着方、礼法、後ろ受け身、横受け身、前方回転受け身		17		
3	柔道着の着方、礼法、後ろ受け身、横受け身、前方回転受け身		18		
4	足さばき、足払い、出足払い、体落とし		19		
5	体落とし、一本背負い		20		
6	一本背負い、小内刈り		21		
7	体落とし、一本背負い、小内刈り、足払い		22		
8	形の礼法、浮落		23		
9	礼法 浮落		24		
10	礼法 浮落		25		
11	背負投		26		
12	背負投		27		
13	背負投		28		
14	背負投		29		
15	実技試験		30		
【評価方法】					
・正しい礼法、受身、投げの形ができるか。・約束乱取りができるか。					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
社会保障制度		1	島谷 タ美	前期	1 (15)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
医療人という人間関係において生じる諸問題を、解決するべく為に、社会保障制度について学び柔道整復師として現場で対処できるように					
【到達目標】					
柔道整復師になる為に必要な、社会保障制度についての仕組み、種類、具体的な保障内容について知る					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
回	概 要		回	概 要	
1	社会保障とは		16		
2	社会保険制度とは		17		
3	介護保険、公的年金、公衆衛生の意義		18		
4	医療保険制度とは		19		
5	保険診療の概要		20		
6	診療報酬制度		21		
7	療養費制度の概（柔道整復療養費について）		22		
8	柔道整復療養費の推移、療養費請求のケーススタ ディ		23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		
【評価方法】					
評価は筆記試験					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
基礎柔整ⅠA	1	穴久保 裕子	通年	2(60)
【実務経験】				
株式会社メディカルさくら(2004年4月～2017年3月)				
介護老人保健施設こずやサンプルク(2019年4月～2020年6月) 株式会社メディカルさくら(2020年7月～)				
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)				
骨の形態と機能を理解させ、骨折、脱臼が人体に及ぼす影響を習得させる				
【到達目標】				
骨の形態と機能、骨折と脱臼を理解する				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学・理論編 (改訂第7版)		復習問題を解かせる		
回	概 要	回	概 要	
1	骨の形態と機能	16	小児・高齢者の骨折	
2	骨の形態と機能	17	小児・高齢者の骨折	
3	骨の損傷および損傷時に加わる力	18	小児・高齢者の骨折	
4	骨の損傷および損傷時に加わる力	19	骨折の治癒過程	
5	骨の損傷および痛みの基礎	20	骨折の治癒過程	
6	骨の損傷および痛みの基礎	21	これまでの復習	
7	骨折の分類	22	脱臼の分類	
8	骨折の分類	23	脱臼の分類	
9	骨折の分類	24	脱臼の症状	
10	これまでの復習	25	脱臼の症状	
11	骨折の症状と合併症	26	これまでの復習	
12	骨折の症状と合併症	27	脱臼の合併症	
13	骨折の症状と合併症	28	脱臼の合併症	
14	骨折の症状と合併症	29	脱臼の合併症	
15	これまでの復習	30	これまでの復習	
【評価方法】				
前期・後期の試験				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
基礎柔整ⅠB		1	江戸 敬之	通年	2 (60)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校付属接骨院(2010年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)					
柔道整復学理論偏(p46～52)関節損傷、(p59～82)関節構成組織・筋・腱・神経損傷について学習する。					
【到達目標】					
関節構成組織・筋・腱・末梢神経損傷の概説、分類、症状、治癒機序、予後についての知識を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論偏			毎授業の復習、夏冬休みの課題		
回	概 要		回	概 要	
1	授業について。医学用語について。		16	腱の構造と機能	
2	関節の構造①		17	腱の補助装置①	
3	関節の構造②		18	腱の補助装置②	
4	関節の構造③		19	腱損傷の概説	
5	関節構成組織損傷の概説		20	腱損傷の分類①	
6	関節構成組織損傷①		21	腱損傷の分類②	
7	関節構成組織損傷②		22	腱損傷の症状	
8	関節構成組織損傷③		23	腱損傷の治癒機序	
9	筋の構造と機能		24	末梢神経の構造と機能	
10	筋の補助装置		25	末梢神経損傷の概説	
11	筋損傷の概説・分類①		26	末梢神経損傷の症状①	
12	筋損傷の分類②		27	末梢神経損傷の症状②	
13	筋損傷の症状		28	末梢神経損傷の治癒機序・予後①	
14	筋損傷の治癒機序		29	末梢神経損傷の治癒機序・予後②	
15	筋損傷の予後		30	復習	
【評価方法】					
前・後期の中間・定期試験、課題提出により評価する					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
基礎柔整ⅠC		1	穂積 知弥	前期	1 (30)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院（2020年、4月～）					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
柔道整復術を習得する上で必要となる人体の基本的な事項について学習する。					
【到達目標】					
人体の構造・機能、起こりえる損傷の原因について説明できるようになる。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
・ 柔道整復学理論編 ・ 解剖学			前時間に学習した内容の復習		
回	概 要		回	概 要	
1	ガイダンス		16		
2	医療用語について		17		
3	医療面接		18		
4	運動の面①		19		
5	運動の面②		20		
6	運動の軸①		21		
7	運動の軸②		22		
8	運動の名称（上肢）		23		
9	運動の名称（下肢・体幹）		24		
10	固定の基礎		25		
11	後療法		26		
12	骨の構造		27		
13	関節の構造		28		
14	筋の構造		29		
15	神経の構造		30		
【評価方法】					
確認問題・定期試験・授業態度					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨礎柔整ⅠA	1	穴久保 裕子	通年	2(60)
【実務経験】				
株式会社メディカルさくら(2004年4月～2017年3月)				
介護老人保健施設こずやサンプルク(2019年4月～2020年6月) 株式会社メディカルさくら(2020年7月～)				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
柔道整復師となるための意識をもたせ、また損傷程度の判断や適切な処置を行える知識を習得させる				
【到達目標】				
診察・後療法・頭部・顔面の損傷の理解をする				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学・理論編（改訂第7版）		復習問題を解かせる		
回	概 要	回	概 要	
1	診察と触診	16	頭部の骨折（骨折の復習含む）	
2	診察と触診	17	頭部の骨折（骨折の復習含む）	
3	診察と触診	18	頭部の骨折	
4	診察と触診	19	顔面部の骨折（骨折の復習含む）	
5	後療法	20	顔面部の骨折（骨折の復習含む）	
6	後療法	21	顔面部の骨折	
7	後療法	22	ここまでの頭部・顔面部の骨折	
8	後療法	23	頭部の脱臼（脱臼の復習含む）	
9	これまでの復習	24	頭部の脱臼（脱臼の復習含む）	
10	頭部の軟部組織損傷（解剖含む）	25	頭部の脱臼	
11	頭部の軟部組織損傷	26	顔面の脱臼（脱臼の復習含む）	
12	顔面部の軟部組織損傷（解剖含む）	27	顔面の脱臼（脱臼の復習含む）	
13	顔面部の軟部組織損傷（解剖含む）	28	顔面の脱臼	
14	顔面部の軟部組織損傷	29	これまでの復習	
15	これまでの復習	30	これまでの復習	
【評価方法】				
前期・後期の試験				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅠB	1	穂積 知弥	前期	1（30）
【実務経験】				
仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2020年、4月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
医療専門用語の理解のため、解剖学や運動学の内容をあわせ学習する。				
【到達目標】				
医療専門用語、運動器に関する基礎的知識を身につける。				
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】	
回	概 要		回	概 要
1	ガイダンス		16	
2	医療専門用語について		17	
3	運動器とは		18	
4	四肢体幹の各名称、体節		19	
5	運動面		20	
6	運動軸		21	
7	運動の表し方（上肢）		22	
8	運動の表し方（上肢）		23	
9	運動の表し方（下肢）		24	
10	運動の表し方（下肢）		25	
11	運動の表し方（体幹、その他）		26	
12	関節の構造		27	
13	関節の形状		28	
14	復習		29	
15	復習		30	
【評価方法】				
確認問題・定期試験・授業態度				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅠC	1	佐藤 真希	後期	1 (30)
【実務経験】				
岩佐接骨院（1998年4月～2002年 3 月）、仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2002年 4 月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
体幹の骨折、脱臼、軟部組織損傷を学ぶ。				
【到達目標】				
体幹の運動器と損傷による症状、施術がわかる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校協会配布教科書 柔道整復理論・実技書		次回講義内容に必要な解剖学の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	体幹の解剖と運動学	16		
2	肋骨骨折①	17		
3	肋骨骨折②	18		
4	肋骨骨折③	19		
5	肋骨骨折④	20		
6	胸骨骨折	21		
7	胸背部軟部組織損傷	22		
8	脊椎骨折①	23		
9	脊椎骨折②	24		
10	脊椎骨折③	25		
11	脊椎骨折④	26		
12	脊椎骨折⑤	27		
13	脊椎脱臼①	28		
14	脊椎脱臼②	29		
15	復習	30		
【評価方法】				
中間試験、定期試験結果のみ				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅠA	1	高橋 怜往	通年	2（60）
【実務経験】				
仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2008年4月～2024年3月）、修心接骨院（2024年4月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
包帯、テーピング等の基本的な知識と技術を用いて、身体各部位の固定を適切に施せることを目的とする。また、誤った施術により身体に悪影響を及ぼす可能性があることをしっかりと自覚させる。				
【到達目標】				
包帯、テーピング等の基本的な知識と技術を習得し、身体各部位に適切な固定を施せることを目標とする。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
（社）全国柔道整復学学校協会 包帯固定学		次回の予習、授業内容の復習。		
回	概 要	回	概 要	
1	固定の基礎①	16	部位別包帯法④	
2	固定の基礎②	17	部位別包帯法⑤	
3	固定材料の種類	18	部位別包帯法⑥	
4	巻軸帯の巻き方と巻き戻しの注意事項	19	部位別包帯法⑦	
5	基本包帯法①	20	部位別包帯法⑧	
6	基本包帯法②	21	三角巾による固定	
7	基本包帯法③	22	固定材料の作成と固定例①	
8	基本包帯法④	23	固定材料の作成と固定例②	
9	冠名包帯法①	24	固定材料の作成と固定例③	
10	冠名包帯法②	25	固定材料の作成と固定例④	
11	冠名包帯法③	26	固定材料の作成と固定例⑤	
12	冠名包帯法④	27	固定材料の作成と固定例⑥	
13	部位別包帯法①	28	復習	
14	部位別包帯法②	29	復習	
15	部位別包帯法③	30	復習	
【評価方法】				
実技試験・定期試験（出席率・受講態度を総合的に含めて評価する）				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅠB	1	佐藤 真希	通年	2 (60)
【実務経験】				
岩佐接骨院（1998年4月～2002年 3 月）、仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2002年 4 月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
基本包帯の習得と上肢の主要関節部の巻き方、臨床で遭遇しやすい外傷の副子固定法を行う。				
【到達目標】				
どの部位でも均一な圧で包帯固定ができる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校協会配布教科書 柔道整復理論・実技書		次回講義内容に必要な解剖学の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	包帯の扱い、環行、らせん、蛇行帯	16	肘関節副子作成	
2	亀背帯、折転帯	17	肘関節固定試験	
3	麦穂帯	18	手関節の副子作成－ 1	
4	母指の包帯－ 1	19	手関節の副子作成－ 2	
5	母指の包帯－ 2	20	足関節包帯－ 1	
6	4・5 指包帯	21	足関節包帯－ 2	
7	母指の副子作成	22	距腿関節捻挫副子	
8	母指の副子固定	23	ショパール関節副子	
9	母指固定試験	24	リスフラン関節副子	
10	肩関節麦穂固定－ 1	25	リスフラン関節関節テーピング	
11	肩関節麦穂固定－ 2	26	手関節～上腕近位包帯固定－ 1	
12	肩関節麦穂固定－ 3	27	手関節～上腕近位包帯固定－ 2	
13	肩関節麦穂固定－ 4	28	手関節～上腕近位包帯固定－ 3	
14	肩関節麦穂固定試験	29	手関節～上腕近位包帯固定－試験	
15	肘関節固定－ 1	30	予備日	
【評価方法】				
中間試験、定期試験結果のみ				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅠC		1	江戸 敬之	後期	1 (30)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校付属接骨院(2010年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
固定材料の種類、固定の原則、基本包帯法、部位別包帯法、冠名包帯法の種類、名称、特徴等を学習する。					
【到達目標】					
次年次の実技に応用できる固定材料、固定の原則、部位別包帯法、冠名包帯法等の知識を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
包帯固定学、柔道整復学理論編			毎授業の復習、冬休みの課題		
回	概 要		回	概 要	
1	固定とは。		16		
2	固定の目的、固定の範囲、固定肢位		17		
3	良肢位とは。主要関節の良肢位		18		
4	固定材料の種類(硬性・軟性)		19		
5	巻軸包帯とは		20		
6	巻軸包帯の臍部の名称、巻き方と注意点		21		
7	基本包帯法		22		
8	部位別包帯法①		23		
9	部位別包帯法②		24		
10	冠名包帯法		25		
11	厚紙副子、スダレ副子		26		
12	金属副子		27		
13	ギプス、キャスト材		28		
14	絆創膏固定		29		
15	復習		30		
【評価方法】					
後期中間・定期試験、冬休み課題で評価する。					

2024年度 シラバス				
授業科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床実習	1	島谷・佐藤・江戸・長谷川・穂積・穴久保	通年	1（45）
【実務経験】 接骨院にて柔道整復師として勤務				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
学校内での実習を通し、挨拶や身だしなみ、院内清掃や整理整頓、物理療法機器の取り扱い(種類、適応禁忌等)、手技療法の適応禁忌等、患者対応など施術者としての基本的な知識、動作などを身につける。外傷に対する診察から検査法、整復法、固定法までの一連の動作を実習する。 高齢者介護セミナーを含む。				
【到達目標】				
・ 施術者としての清潔感のある身だしなみができる。 ・ 院内の清掃や整理整頓ができる。 ・ 挨拶ができる。 ・ 患者との対応ができる(受付業務等)。 ・ 物理療法機器の使用方法、適応禁忌等を理解する。 ・ 手技療法の適応禁忌等を理解する。 ・ 外傷に対する診察から検査法、整復法、固定法までの一連の動作を理解する。				
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】	
柔道整復学理論編改訂第7版・配布資料				
回	授業概要		備考	
1	身だしなみ、挨拶、患者対応		左記8回を45時間で行う	
2	挨拶や受付業務			
3	院内清掃や整理整頓の手順			
4	カルテ整理の方法等			
5	手技療法の種類、適応禁忌等			
6	物理療法機器の取り扱い(種類、適応禁忌等)			
7	外傷に対する診察、検査法、整復法、固定法(上肢)			
8	外傷に対する診察、検査法、整復法、固定法(下肢)			
評価法	レポート、実習日誌等で行う。			

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
解剖学Ⅱ	2	舟山 真人	通年	2（60）
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
柔道整復師として必要な身体の正常構造を理解する。2年次では神経系、脈管系および感覚器系の構造を学習する。重要なところは繰り返し学び、更に一部は生理学など他の科目に重なることがある。神経や脈管系は苦手とする学生も少なからずいるが、ある程度はポイントが絞られるので、最低でもそこを覚えることで対処可能である。ただ少なくとも、授業以外の復習学習は必須である。				
【到達目標】				
それぞれの項目につき、基本となる構造的特徴を理解する。なお、項目の終わりに国家試験に準じた4択問題を解く訓練にも時間をかけるので、授業に真面目に取り組めば、類似問題が出されても、正解へ導くことができる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
解剖学改訂第2版を参考とした穴埋式のプリントを用いる		試験前にはプリントの穴埋個所をすべて答えられるようにしておく		
回	概 要	回	概 要	
1	6. 神経系 A. 神経系の基礎	16	6. 神経系 D. 末梢神経	
2	6. 神経系 A. 神経系の基礎	17	6. 神経系 D. 末梢神経（自律神経）	
3	6. 神経系 B. 脳	18	3. 脈管系 A. 総論/ B. 心臓	
4	6. 神経系 B. 脳	19	3. 脈管系 B. 心臓	
5	6. 神経系 B. 脳	20	3. 脈管系 C. 脈管系	
6	6. 神経系 B. 脳 / C. 脊髄	21	3. 脈管系 C. 脈管系	
7	6. 神経系 C. 脊髄	22	3. 脈管系 C. 脈管系	
8	6. 神経系 C. 脊髄	23	3. 脈管系 C. 脈管系（静脈・リンパ）	
9	6. 神経系 D. 末梢神経（脳神経）	24	3. 脈管系 C. 脈管系（静脈・リンパ）	
10	6. 神経系 D. 末梢神経（脳神経）	25	7. 感覚器 A. 外皮	
11	6. 神経系 D. 末梢神経（脳神経）	26	7. 感覚器 B. 視覚器	
12	6. 神経系 D. 末梢神経（脳神経）	27	7. 感覚器 B. 視覚器	
13	6. 神経系 D. 末梢神経	28	7. 感覚器 C. 聴覚器および平衡器	
14	6. 神経系 D. 末梢神経	29	7. 感覚器 C. 聴覚器および平衡器、その他	
15	6. 神経系 D. 末梢神経	30	解剖学Ⅱ まとめ（学年末定期試験解説）	
【評価方法】				
前期・後期の中間・期末試験によって行う（事前に簡単なアナウンスは行うが4肢択一以外の問題が出ることもある。）。				

2025年度 シラバス				
科目名 生理学II	学年	講師名 鈴木敏彦	開講区分	単位数
	2		通年	1 (30)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
柔道整復師として必要な身体の機能・機序を幅広く理解する。2 学年においては解剖学で習得する神経系・心脈管系の進行を意識しつつ、神経調節、液性調節、循環生理、呼吸生理、生殖機能を習得する。機序の理解に欠かせない、「何がどうすればどうなる」という生理学的類推力を培うことに重点を置いて学習を進めていく。				
【到達目標】				
◎ 内蔵機能の自律神経による調節について説明できる。				
◎ 血液と組織間でのガス交換について説明できる。				
◎ ホルモンの作用発現機序について説明できる。				
◎ 骨格筋の神経調節と反射について説明できる。				
◎ 全身で分泌されるホルモンと、その生理作用、分泌調節のしくみについて説明できる。				
◎ 男性・女性生殖器系の構成と精子・卵子生成について説明できる。				
◎ 卵巣周期・月経周期の液性調節機構について説明できる。				
◎ 妊娠と分娩、乳汁産生の生理機能について説明できる。				
◎ 心機能、血管の機能について説明できる。				
◎ 血液循環の神経性調節・液性調節について説明できる。				
◎ 気道・肺による換気の機序、呼吸調節の機序について説明できる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
教科書： 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）		次時予告に従い教科書に目を通しておく。また授業時の確認テストを復習に活用する。		
回	授業概要	回	授業概要	
1	6. 内分泌	16		
2	7. 生殖	17		
3	10. 循環	18		
4	11. 呼吸の生理	19		
5	9. 骨の生理	20		
6		21		
7	上記内容を30時間で実施する。	22		
8		23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
評価法	前期・後期の定期試験によって行う（4肢択一・択二式、その他）。			

2025年度 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
高齢者の生理学的特徴・変化	2	鈴木敏彦	通年	1 (15)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
柔道整復師として必要な身体の機能・機序を幅広く理解する。2学年においては解剖学で習得する神経系・心脈管系の進行を意識しつつ、神経調節，液性調節，循環生理，呼吸生理，生殖機能を習得する。機序の理解に欠かせない，「何がどうすればどうなる」という生理学的類推力を培うことに重点を置いて学習を進めていく。				
【到達目標】				
◎ 細胞・組織の加齢現象について説明できる。				
◎ 高齢者の生理的特徴について説明できる。				
◎ 運動機能の加齢変化について説明できる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
教科書： 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）		次時予告に従い教科書に目を通しておく。また授業時の確認テストを復習に活用する。		
回	授業概要	回	授業概要	
1	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	16		
2	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	17		
3	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	18		
4	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	19		
5	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	20		
6	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	21		
7	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	22		
8	16. 高齢者の生理学的特徴・変化	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
評価法	前期・後期の定期試験によって行う（4肢択一・択二式，その他）。			

2025年度 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
競技者の生理学的特徴・変化		2	鈴木敏彦	通年	1 (15)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
柔道整復師として必要な身体の機能・機序を幅広く理解する。2 学年においては解剖学で習得する神経系・心脈管系の進行を意識しつつ、神経調節、液性調節、循環生理、呼吸生理、生殖機能を習得する。機序の理解に欠かせない、「何がどうすればどうなる」という生理学的類推力を培うことに重点を置いて学習を進めていく。					
【到達目標】					
◎ 成長に伴う身体や運動能力の発達について説明できる。					
◎ 競技者の生理学的特徴・変化について説明できる。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
教科書： 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）			次時予告に従い教科書に目を通しておく。また授業時の確認テストを復習に活用する。		
回	授業概要		回	授業概要	
1	4. 運動の生理		16		
2	4. 運動の生理		17		
3	4. 運動の生理		18		
4	4. 運動の生理		19		
5	17. 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化		20		
6	17. 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化		21		
7	17. 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化		22		
8	17. 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化		23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		
評価法	前期・後期の定期試験によって行う（4 肢択一・択二式，その他）。				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
運動学	2	小林 武	通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
運動学の基礎、四肢・体幹の運動学、姿勢と歩行、運動学習、運動発達等について講義を行う。なお、講義に加え視聴覚教材も使用する。多様な疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある理学療法士が、その治療学の基礎である運動学について臨床との接点の紹介を含み教授する。				
【到達目標】				
身体運動を運動学的、運動力学的に説明できる。身体運動の神経機構ならびに運動器の構造と機能に関する基礎的な事項を説明できる。身体運動・動作の発達と運動学習について説明できる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校指定の書籍を使用する		各回の予習・復習に90分が必要である。関節運動学の回では関連する解剖・生理学の予習が必要である。		
回	概 要	回	概 要	
1	運動学の目的	16	股関節の運動1	
2	基礎力学	17	股関節の運動2	
3	運動器の構造と機能	18	膝関節の運動1	
4	神経の構造と機能	19	膝関節の運動2	
5	運動感覚	20	足関節と足趾の運動1	
6	反射と随意運動1	21	足関節と足趾の運動2	
7	反射と随意運動2	22	顔面と頭部の運動	
8	頸椎の運動	23	姿勢	
9	胸椎・腰椎の運動	24	歩行1	
10	呼吸の運動	25	歩行2	
11	上肢帯と肩関節の運動1	26	歩行3	
12	肩関節の運動2	27	歩行4	
13	肘関節・前腕の運動	28	運動発達1	
14	手関節と手指の運動1	29	運動発達2	
15	手関節と手指の運動2	30	運動学習	
【評価方法】				
試験の点数で評価する。				

2025年度 シラバス				仙台接骨医療専門学校	
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数	
衛生学	2	大沼 英子	通年	2 (60)	
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
健康の保持・増進、疾病の予防などを図ることを目的とした科学・技術に関する学問である衛生学・公衆衛生学の基本的理論を理解するために、環境保健、健康教育、衛生行政、医療制度、社会保障など、特に健康に関わる社会や環境、統計資料、生活習慣などに関する授業を行う					
【到達目標】					
公衆衛生に関する統計資料などの内容を解釈し、健康の維持・増進、疾病の予防などを図るために、衛生学・公衆衛生学の概念や環境衛生、統計資料、生活習慣の現状と対策といった基本的理論を理解する					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
「衛生学・公衆衛生学」鈴木庄亮ほか著 南江堂			他科目の内容と関連する部分が多いため、各自で適宜補修、復習してほしい		
回	授業概要		回	授業概要	
1	衛生学とは		16	感染症の予防：感染の成立・発病 分類	
2	歴史と公衆衛生学 1		17	感染症の予防：主な感染症	
3	歴史と公衆衛生学 2		18	感染症の予防感染症の予防対策	
4	公衆衛生活動 1		19	消毒：消毒の実際	
5	公衆衛生活動 2		20	消毒：消毒の種類と方法	
6	健康の概念		21	環境衛生：環境の分類と環境問題	
7	健康の概念：健康の測定		22	環境衛生：環境要因 1	
8	健康の概念：人口統計		23	環境衛生：環境要因 2	
9	健康の概念：健康水準・健康指標		24	環境衛生：環境汚染・公害	
10	健康の概念：慢性疾患と生活 1		25	生活環境・食品衛生活動：水の衛生と水質汚染	
11	健康の概念：慢性疾患と生活 1		26	生活環境・食品衛生活動：衣類・住居	
12	疾病予防と健康管理：疾病と疾病予防		27	生活環境・食品衛生活動：食品・食品衛生活動	
13	疾病予防と健康管理：健康管理		28	生活環境・食品衛生活動：栄養改善活動	
14	感染症の予防：最近の感染症の動向		29	生活環境・食品衛生活動：廃棄物処理	
15	試験講評・解説		30	試験講評・解説	
評価法	定期試験および中間テスト、チェックテスト等に加え、出欠、授業態度などを含め総合的に評価を行う				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
一般臨床医学Ⅰ		2	武田 和久	通年	2（60）
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
柔道整復師にとって役に立つ医療分野の基礎知識を身につけさせる。さらには臨床徴候から体の中で何が起きているかを推論する思考力を涵養する。前半の診察論や検査データ等においては、その疾患の病態も含め説明する。					
【到達目標】					
①診察から得られる徴候と病態を関連付けることができる。②生命徴候の異常と救急疾患の関係性を説明できる。③検査異常と疾患を関連付けられる。④主な呼吸器、循環器、消化器、代謝について説明できる。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
一般臨床医学（医師薬出版）、配布資料			教科書に沿うので事前、事後の予習復習が望ましい		
回	概 要		回	概 要	
1	診察概論・医療面接，視診：体格、体型		16	生命徴候	
2	視診：体位、姿勢		17	感覚検査	
3	視診：栄養状態、精神状態		18	反射検査	
4	視診：運動麻痺（総論）		19	代表的臨床症状	
5	視診：運動麻痺（神経各論）・運動失調		20	学習内容の振り返り 3	
6	視診：不随意運動、病的歩行		21	検査法	
7	学習内容の振り返り 1		22	呼吸器疾患:総論、感染症	
8	視診：皮膚（色調、紫斑など）		23	呼吸器疾患：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	
9	視診：皮膚（浮腫、発疹、爪の変化など）		24	呼吸器疾患：肺腫瘍、その他	
10	視診：頭部、顔面、口腔		25	循環器疾患：総論、虚血性心疾患	
11	視診：胸部、腹部、背腰部、四肢		26	循環器疾患：心不全、高血圧、血管、不整脈	
12	学習内容の振り返り 2		27	循環器疾患：心臓弁膜症、先天性疾患	
13	打診・聴診：総論、胸部（肺）、腹部		28	血液疾患	
14	打診・聴診：胸部（心臓）		29	学習内容の振り返り 4	
15	触診：総論、各論（頭頸部、胸部、筋肉、腹部、骨、リンパ節）		30	学習内容の振り返り 5	
【評価方法】					
定期試験成績と本校学務規定に拠る。					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
整形外科学	2	島谷 剛美	通年	2（60）
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
整形外科学について、基礎と臨床疾患について、出来るだけ多くの資料を提供し、理解出来るように掘り下げながら授業を展開する。必要であれば、おのおのの分野でのアップデートを紹介する。				
【到達目標】				
整形外科学の知識を、有機的に理解し運用できるようにする。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
整形外科学（改訂第4版）		配付資料の予習		
回	概 要	回	概 要	
1	整形外科 歴史etc	16	体幹腰椎疾患	
2	運動器の基礎	17	肩関節疾患	
3	整形外科 診断と検査	18	上肢疾患 変性疾患と外傷	
4	整形外科の治療手段	19	骨盤疾患（股関節含む）	
5	予防医学として ロコモティブシンドローム	20	膝関節疾患	
6	骨折総論	21	下腿及び足疾患（外傷含む）	
7	スポーツ外傷 リハビリ総論	22	整形外科 統括	
8	骨感染症 リウマチ等関節疾患	23	※全22テーマを30講義振り分けて実施する 1～1.5コマ使用	
9	骨腫瘍 軟部腫瘍	24		
10	骨端症	25		
11	骨系統疾患	26		
12	四肢循環障害	27		
13	神経節疾患	28		
14	肩こりの医学	29		
15	頸椎疾患	30		
【評価方法】				
基本的に前後期末、及び実力試験の成績をもって評価する。				

2025年度 シラバス				
科目名	学年	指導担当者名	開講区分	単位数
柔道実技Ⅱ	2	穂積 知弥	後期	1 (30)
【実務経験】 仙台接骨医療専門学校付属接骨院 (2020年4月～)				
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)				
3年次の認定実技審査に向け、礼法と投げの形を習得する。礼法は正しい姿勢、順序を覚える。投げの形は正しい間合いや動作を覚え、技の理合いを理解する。合わせて、国家試験必修対策として柔道の基礎的な知識を身に着ける。				
【到達目標】				
・正しい礼法、前回り受け身の習得 ・投げの形（手技、腰技、足技）の習得 ・柔道の基本知識の習得				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
南江堂 柔道		南江堂 柔道Web動画を参照		
回	授業概要	回	授業概要	
1	受け身、礼法	16		
2	礼法、受け身、形の礼法	17		
3	形の礼法、受け身、浮落	18		
4	形の礼法、受け身、浮落	19		
5	形の礼法、背負投	20		
6	形の礼法、背負投	21		
7	形の礼法、肩車	22		
8	形の礼法、浮腰	23		
9	形の礼法、浮腰	24		
10	形の礼法、払腰	25		
11	形の礼法、払腰	26		
12	形の礼法、釣込腰	27		
13	形の礼法、釣込腰	28		
14	送足払、支釣込足	29		
15	内股	30		
評価法	平常点、実技試験、中間・定期試験により評価する。			

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
外傷の保存療法	2	江戸 敬之	前期	1 (15)
【実務経験】				
仙台接骨医療専門学校付属接骨院(2010年4月～)				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
外傷の保存療法の種類、特徴、適応、禁忌注意事項について学習する。				
【到達目標】				
各論、実技、臨床に対応できる外傷の保存療法の知識を習得する。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論編、競技者の外傷予防		毎授業の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	外傷とは、保存療法とは	16		
2	柔道整復師の治療法と理学療法	17		
3	スポーツ外傷とスポーツ障害	18		
4	徒手筋力検査と筋力増強法	19		
5	関節可動域、関節可動域測定	20		
6	RICE、PRICES、POLICE処置	21		
7	受傷メカニズムと外傷予防	22		
8	復習	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
【評価方法】				
前期定期試験、夏休みの課題で評価する。				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
基礎柔整Ⅱ		2	江戸 敬之	通年	2 (60)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院(2010年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
1年次で学んだ骨・関節・筋・腱・末梢神経損傷の復習を行い、各論に結び付くように学習する					
【到達目標】					
骨・関節・筋・腱・末梢神経損傷の理解を深め、各論、実技に結び付くような知識を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論偏			毎授業の復習、夏冬休みの課題		
回	概 要		回	概 要	
1	骨損傷		16	末梢神経損傷復習・演習問題・解説	
2	骨損傷の症状		17	徒手整復法	
3	骨損傷の合併症		18	骨折の整復法	
4	骨損傷・演習問題・解説		19	脱臼の整復法	
5	関節損傷①		20	整復法・演習問題・解説	
6	関節損傷②		21	固定法(骨損傷)	
7	関節損傷・演習問題・解説		22	固定法(関節損傷)	
8	腱損傷①		23	固定法(軟部組織損傷)	
9	腱損傷②		24	固定法・演習問題・解説	
10	腱損傷・演習問題・解説		25	治療法・分類・注意点・適応	
11	末梢神経の構造・機能		26	手技療法	
12	末梢神経の損傷		27	運動療法	
13	末梢神経損傷の症状		28	治療法・演習問題・解説	
14	末梢神経の治癒機序・予後①		29	復習①	
15	末梢神経の治癒機序・予後②		30	復習②	
【評価方法】					
前後期の中間・定期試験、夏冬休みの課題で評価する。					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
物理療法機器等の取扱		2	江戸 敬之	前期	1 (15)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校付属接骨院(2010年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
物理療法の分類、物理療法機器、各物理療法の特徴、適応、禁忌について学習する。					
【到達目標】					
臨床に対応できる物理療法の分類、各物理療法の特徴、適応、禁忌についての知識を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論偏			毎授業の復習、夏冬休みの課題		
回	概 要		回	概 要	
1	柔道整復師の治療法・物理療法とは。		16		
2	物理療法の分類		17		
3	電気療法・低周波		18		
4	電気療法・中周波、干渉波		19		
5	温熱療法・伝導熱、輻射熱療法		20		
6	温熱療法・変換熱療法		21		
7	寒冷療法		22		
8	その他の物理療法、演習問題、解説		23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		
【評価方法】					
前期中間・定期試験、夏休みの課題で評価する。					

2025年度 シラバス					
授業科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅡA		2	長谷川 由奈	通年	2 (60)
【実務経験】 おおはし整形外科医院勤務 (2016.4～2020.3) 仙台接骨医療専門学校付属接骨院 (2020.4～)					
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)					
上肢の骨折は国家試験で出題が多く、必修問題にも入っている。 基礎知識に加え、臨床現場でも応用できるよう教科書の内容を理解できるようにする。					
【到達目標】					
国家試験にむけて内容を理解する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論 柔道整復学実技 解剖学 整形外科学			国家試験問題集 授業の復習		
回	授業概要		回	授業概要	
1	ガイダンス		16	前腕骨近位端部骨折	
2	上肢の解剖		17	前腕骨骨幹部骨折	
3	鎖骨骨折		18	前腕骨骨幹部骨折	
4	鎖骨骨折		19	前腕骨骨幹部骨折	
5	肩甲骨骨折		20	前腕骨遠位端部骨折	
6	上腕骨近位端部骨折		21	前腕骨遠位端部骨折	
7	上腕骨近位端部骨折		22	前腕骨遠位端部骨折	
8	上腕骨骨幹部骨折		23	手関節部の解剖	
9	上腕骨骨幹部骨折		24	手根骨骨折	
10	上腕部遠位・前腕部の解剖		25	手根骨骨折	
11	上腕骨遠位端部骨折		26	中手骨骨折	
12	上腕骨遠位端部骨折		27	中手骨骨折	
13	上腕骨遠位端部骨折		28	指骨骨折	
14	復習問題		29	指骨骨折	
15	前腕骨近位端部骨折		30	練習問題	
評価法	確認問題・定期試験・授業態度				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
臨礎柔整ⅡB		2	穴久保 裕子	通年	2(60)
【実務経験】					
株式会社メディカルさくら(2004年4月～2017年3月)					
介護老人保健施設こずやサンプルク(2019年4月～2020年6月) 株式会社メディカルさくら(2020年7月～)					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
下肢の骨、筋の解剖の確認を取り入れながら下肢の骨折・脱臼について習得させる					
【到達目標】					
下肢の骨折・脱臼を理解する					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復理論・理論編（改訂第7版）			復習問題を解かせる		
回	概 要		回	概 要	
1	骨盤骨骨折		16	下腿骨骨折（遠位部）および足関節脱臼骨折	
2	骨盤骨骨折		17	下腿骨骨折（遠位部）および足関節脱臼骨折	
3	大腿骨骨折（近位部）		18	下腿骨骨折（遠位部）および足関節脱臼骨折	
4	大腿骨骨折（近位部）		19	足根骨骨折	
5	大腿骨骨幹部骨折		20	足根骨骨折	
6	大腿骨骨幹部骨折		21	中足骨骨折と趾骨骨折	
7	大腿骨骨折（遠位部）		22	中足骨骨折と趾骨骨折	
8	大腿骨骨折（遠位部）		23	これまでの復習	
9	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼		24	股関節脱臼	
10	これまでの復習		25	股関節脱臼	
11	下腿骨骨折（近位部）		26	膝関節脱臼	
12	下腿骨骨折（近位部）		27	膝関節脱臼	
13	下腿骨骨幹部骨折		28	足関節および足趾関節脱臼	
14	下腿骨骨幹部骨折		29	足関節および足趾関節脱臼	
15	これまでの復習		30	これまでの復習	
【評価方法】					
前期・後期の試験					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅡC	2	佐藤 真希	通年	2 (60)
【実務経験】				
岩佐接骨院（1998年4月～2002年 3 月）、仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2002年 4 月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
国家試験の出題頻度と臨床現場で多くみられる外傷は理論と実技を実施する。視診や触診、検査法を重んじるため基本的な解剖学の知識は授業日前までに自己学習をお願いしたい。				
【到達目標】				
上肢軟部組織損傷について臨床症状からどのような外傷が想定できるか考えることができる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校協会配布教科書 柔道整復理論・実技書		次回講義内容に必要な解剖学の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	肩部軟部組織損傷 ①	16	手関節軟部組織損傷 ①	
2	肩部軟部組織損傷 ②	17	手関節軟部組織損傷 ②	
3	肩部軟部組織損傷 ③	18	手関節軟部組織損傷 ③	
4	肩部軟部組織損傷 ④	19	手指部・手部軟部組織損傷 ①	
5	肩部軟部組織損傷 ⑤	20	手指部・手部軟部組織損傷 ②	
6	肩部軟部組織損傷 ⑥	21	手指部・手部軟部組織損傷 ③	
7	肩部軟部組織損傷 ⑦	22	手指部・手部軟部組織損傷 ④	
8	肩部軟部組織損傷 ⑧	23	上肢絞扼性神経障害 ①	
9	肘部軟部組織損傷 ①	24	上肢絞扼性神経障害 ②	
10	肘部軟部組織損傷 ②	25	上肢絞扼性神経障害 ③	
11	肘部軟部組織損傷 ③	26	上肢絞扼性神経障害 ④	
12	肘部軟部組織損傷 ④	27	実技 ①	
13	肘部軟部組織損傷 ⑤	28	実技 ②	
14	前腕軟部組織損傷 ①	29	実技 ③	
15	前腕軟部組織損傷 ②	30	実技 ④	
【評価方法】				
中間試験、定期試験結果のみ				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅡA		2	穂積 知弥	通年	2（60）
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院（2020年、4月～）					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
柔道整復師が扱える骨折・脱臼、軟部組織損傷を、柔道整復術を用いての適切な処置について学習する。					
【到達目標】					
損傷の程度を見極めたうえで、整復、固定、後療法の適切な処置を施せることを目標とする。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学（理論編・実技編）			次回の予習、授業内容の復習。		
回	概 要		回	概 要	
1	骨折、脱臼の整復、固定、後療法の説明		16	第2指PIP関節背側脱臼	
2	鎖骨定型的骨折		17	下腿骨骨幹部骨折	
3	鎖骨定型的骨折		18	下腿骨骨幹部骨折	
4	肩鎖関節上方脱臼		19	肋骨骨折	
5	肩鎖関節上方脱臼		20	肋骨骨折	
6	上腕骨外科頸骨折		21	骨折、脱臼まとめ	
7	上腕骨骨幹部骨折		22	骨折、脱臼まとめ	
8	肩関節前方脱臼		23	テーピング（Xサポート）	
9	肩関節前方脱臼		24	テーピング（バスケットウィーブ）	
10	肘関節後方脱臼		25	テーピング（フィギュアエイト、ヒールロック）	
11	肘関節後方脱臼		26	テーピングまとめ	
12	肘内障		27	テーピングまとめ	
13	第5中手骨頸部骨折		28	復習	
14	第5中手骨頸部骨折		29	復習	
15	第2指PIP関節背側脱臼		30	復習	
【評価方法】					
実技試験・定期試験（出席率・受講態度を総合的に含めて評価する）					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅡB	2	佐藤 真希	通年	2 (60)
【実務経験】				
岩佐接骨院（1998年4月～2002年 3 月）、仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2002年 4 月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
国家試験の出題頻度と臨床現場で多くみられる外傷は理論と実技を実施する。視診や触診、検査法を重んじるため基本的な解剖学の知識は授業日前までに自己学習をお願いしたい。				
【到達目標】				
下肢軟部組織損傷について臨床症状からどのような外傷が想定できるか考えることができる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校協会配布教科書 柔道整復理論・実技書		次回講義内容に必要な解剖学の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	股関節疾患①	16	下腿軟部組織損傷④	
2	股関節疾患②	17	足関節軟部組織損傷①	
3	股関節疾患③	18	足関節軟部組織損傷②	
4	大腿部軟部組織損傷①	19	足関節軟部組織損傷③	
5	大腿部軟部組織損傷②	20	足関節軟部組織損傷④	
6	大腿部軟部組織損傷③	21	足趾・足部軟部組織損傷①	
7	膝関節軟部組織損傷①	22	足趾・足部軟部組織損傷②	
8	膝関節軟部組織損傷②	23	足趾・足部軟部組織損傷③	
9	膝関節軟部組織損傷③	24	下肢絞扼性神経障害①	
10	膝関節軟部組織損傷④	25	下肢絞扼性神経障害②	
11	膝関節軟部組織損傷⑤	26	下肢絞扼性神経障害③	
12	膝関節軟部組織損傷⑥	27	下肢絞扼性神経障害④	
13	下腿軟部組織損傷①	28	実技 ①	
14	下腿軟部組織損傷②	29	実技 ②	
15	下腿軟部組織損傷③	30	実技 ③	
【評価方法】				
中間試験、定期試験結果のみ				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅡC	2	穂積 知弥	通年	2 (60)
【実務経験】				
仙台接骨医療専門学校附属接骨院（2020年、4月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
臨床現場でも遭遇しやすい顔面部・体幹の軟部組織損傷、上肢の脱臼について知識を深めていく。				
【到達目標】				
国家試験に対応できる基礎知識を身につけるとともに、臨床現場で応用できる知識を身につける。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
『柔道整復学・理論編 改訂第7版』		配布資料に目を通しておくこと。		
回	概 要	回	概 要	
1	ガイダンス	16	胸・背部軟部組織損傷①	
2	頭部・顔面部の解剖と機能	17	胸・背部軟部組織損傷②	
3	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	18	胸・背部軟部組織損傷③	
4	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	19	胸鎖関節脱臼	
5	顎関節の解剖と機能	20	肩鎖関節脱臼	
6	顎関節症①	21	肩関節脱臼	
7	顎関節症②	22	肩関節脱臼	
8	顎関節損傷③	23	肘関節脱臼	
9	外傷性顎関節損傷	24	肘関節脱臼	
10	頸部の解剖と機能	25	手関節部の脱臼	
11	外傷性頸部症候群①	26	手根中手関節の脱臼	
12	外傷性頸部症候群②	27	中手指節関節の脱臼	
13	胸郭出口症候群①	28	指節間関節の脱臼	
14	胸郭出口症候群②、寝違え	29	復習	
15	胸肋関節損傷	30	復習	
【評価方法】				
定期試験				

2025年度 シラバス				
授業科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床実習	2	島谷・佐藤・江戸・長谷川・穂積・穴久保	通年	2 (90)
【実務経験】 接骨院にて柔道整復師として勤務				
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)				
3年時の外部接骨院実習に備え、以下内容を実技や体験談を交え学習させる。				
①守秘義務の理解 ②高齢者に対する接遇 ③④療養費への理解 ⑤上肢関節の運動・可動域の理解 ⑥介護認定評価に理解 ⑦下肢関節の運動・可動域の理解 ⑧車いすや杖などを使った歩行補助の実践				
上記内容に対する試験。				
学内での介護実習により、高齢者に対する接遇や介護、介護施設内での機能訓練を学ぶ。高齢者介護セミナーを含む。				
【到達目標】				
高齢者に対する適切な接遇や基本的な機能訓練ができるようになる。3年時の外部接骨院実習に備える。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
プリント				
回	授業概要	備考		
1	守秘義務	左記10単元を90時間で行う		
2	高齢者に対する接遇			
3	高齢者の姿勢評価			
4	高齢者の姿勢評価			
5	上肢・下肢関節の運動			
6	介護認定評価			
7	上肢・下肢関節の運動			
8	歩行補助の実践及び試験			
9	学内での介護実習			
10	外部介護施設における実習			
評価法	レポート、実習日誌等で行う。			

2025年度 シラバス

授業科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
解剖学Ⅲ	3	小坂 萌	通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
講義は主にスライド、プリント、板書にて実施する。必要に応じてまとめプリントや演習問題を随時配布し解説する。演習問題を解く時間を増やしてほしい等のリクエストがあれば随時受付け、可能な限り対応したい。なお演習問題は国家試験過去問題をベースに教科書全範囲を対象とすることから1・2年生の内容も含める。				
【到達目標】				
医療技術習得の基礎知識として、ヒトの身体の正常な内臓機能および構造を詳細に学ぶことを目標とする。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
解剖学改訂第2版（医歯薬出版）、イラスト解剖学（中外医学社）、 グレイ解剖学（ELSEVIER）等				
回	授業概要	回	授業概要	
1	消化器① 概要	16	内分泌① 視床下部・下垂体・松果体	
2	消化器② 口腔・咽頭・食道	17	内分泌② 甲状腺・上皮小体	
3	消化器③ 胃・小腸	18	内分泌③ 副腎・膵臓・精巣・卵巣	
4	消化器④ 大腸・肝臓	19	体表解剖① 頭頸部	
5	消化器⑤ 胆嚢・膵臓・腹膜	20	体表解剖② 胸腹部	
6	呼吸器① 鼻・咽頭・喉頭	21	演習問題	
7	前期中間試験解説	22	後期中間試験解説	
8	呼吸器② 気管・気管支・肺・胸膜	23	体表解剖③ 上肢	
9	泌尿器① 腎臓	24	体表解剖④ 上肢	
10	泌尿器② 尿管・膀胱・尿道	25	体表解剖⑤ 下肢	
11	生殖器① 男性	26	体表解剖⑥ 下肢	
12	生殖器② 男性・女性	27	卒業試験解説	
13	生殖器③ 女性	28	演習問題	
14	生殖器④ 女性	29	演習問題	
15	前期試験解説	30	演習問題	
評価法	前期・後期の中間試験、期末試験をもって評価する			

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
生理学Ⅲ		3	工藤 忠明	通年	2（60）
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
柔道整復師として必要な身体の機能・機序を幅広く理解する。はじめに、内部環境と外部環境を知る機能である「感覚」の生理学を学習する。また恒常性の維持に関係の深い体温の機能と調節メカニズムを学習する。最後に、3年生の解剖学Ⅲで学習する内臓学の進行状況を踏まえ、消化と吸収、尿の生成と排泄についてその機能と調節メカニズムを学ぶ。					
【到達目標】					
◎感覚の一般的な性質を説明できる ◎体性感覚、内臓感覚、特殊感覚の受容と伝達を説明できる。 ◎ヒト体温の特性、生理的変動、調節機序を説明できる。 ◎体熱の産生と放散のメカニズムを説明できる。 ◎汗の機能を説明できる。 ◎異常体温とその回復機構を説明できる。 ◎体温の機構順化を説明できる。			◎消化管の運動とその調節を説明できる。 ◎消化液の分泌機序、消化液の作用と栄養素の吸収機序を説明できる。 ◎消化管ホルモンの特徴と作用、分泌機序を説明できる。 ◎肝臓の機能と胆汁の機能を説明できる。 ◎腎臓の構造と機能、腎機能の評価方法を説明できる。 ◎ネフロンのろ過、再吸収、分泌機序を説明できる。 ◎排尿の機序を説明できる。		
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
教科書：全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）			次回予告に従い教科書に目を通しておく。また授業時の確認テストを復習に活用する。		
回	概 要		回	概 要	
1	16.感覚の生理学		16	生理学の関連領域の総復習	
2	16.感覚の生理学		17	生理学の関連領域の総復習	
3	16.感覚の生理学		18	生理学の関連領域の総復習	
4	16.感覚の生理学		19	生理学の関連領域の総復習	
5	7.体温とその調節		20	生理学の関連領域の総復習	
6	7.体温とその調節		21	生理学の関連領域の総復習	
7	5.消化と吸収		22	生理学の関連領域の総復習	
8	5.消化と吸収		23	生理学の関連領域の総復習	
9	5.消化と吸収		24	生理学の関連領域の総復習	
10	5.消化と吸収		25	生理学の関連領域の総復習	
11	5.消化と吸収		26	生理学の関連領域の総復習	
12	5.消化と吸収		27	生理学の関連領域の総復習	
13	8.尿の生成		28	生理学の関連領域の総復習	
14	8.尿の生成		29	生理学の関連領域の総復習	
15	8.尿の生成		30	生理学の関連領域の総復習	
【評価方法】					
前期・後期の定期試験によって行う（4肢択一・択二式問題等）。					
※上部記載の時間数（単位）は通年のものである。					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
一般臨床医学Ⅱ		3	小野 栄夫	通年	1 (30)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
学ぶ。生理学で学んだ各臓器の正常機能を思い出してほしい。病気においては、その生理機能と何が違うの					
【到達目標】					
主な疾患の原因と徴候と臓器病態を関連付けて説明できる。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
一般臨床医学（全国柔道整復学校協会監修）			日常から医学ニュースに関心を持つ、教科書参照の習慣		
回	概 要		回	概 要	
1	消化器疾患 1		16		
2	消化器疾患 2		17		
3	呼吸器疾患 1		18		
4	呼吸器疾患 2		19		
5	循環器疾患 1		20		
6	循環器疾患 2		21		
7	前半総括・到達度確認テスト		22		
8	血液疾患		23		
9	内分泌・代謝疾患		24		
10	膠原病 1		25		
11	膠原病 2		26		
12	腎・泌尿器疾患 1		27		
13	神経系疾患		28		
14	筋変性疾患		29		
15	感染症		30		
【評価方法】					
定期試験の得点による					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
外科学概論		3	武田 美貴	通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
「外科学概論」を中心とした内容の講義を行う。 基本手技、消毒法、腫瘍、麻酔、その他臨床的外科疾患について学ぶ。					
【到達目標】					
外科概論を学び、外科全般における基本的知識を修得することを目標とする。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
回	概 要		回	概 要	
1	手術機器と基本手技,損傷		16	脳神経外科疾患	
2	炎症と外科感染症		17	甲状腺・頸部疾患・乳腺疾患	
3	炎症と外科感染症,腫瘍		18	胸壁・呼吸器疾患	
4	炎症と外科感染症,腫瘍		19	心臓・脈管疾患	
5	ショック		20	心臓・脈管疾患	
6	輸血と輸液		21	心臓・脈管疾患	
7	消毒と滅菌,手術		22	心臓・脈管疾患	
8	消毒と滅菌,手術		23	腹部外科疾患	
9	麻酔,移植と免疫		24	腹部外科疾患	
10	麻酔,移植と免疫		25	腹部外科疾患	
11	移植と免疫,出血と止血		26	腹部外科疾患	
12	移植と免疫,出血と止血		27	総復習（補講）	
13	心肺蘇生法		28	総復習（補講）	
14	心肺蘇生法		29	総復習（補講）	
15	脳神経外科疾患		30	総復習（補講）	
【評価方法】					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
リハビリ医学	3	星 孝	通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
リハビリテーションの臨床経験を有する教員により、リハビリテーションの理念や障害の概念について授業を行う。また、リハビリテーションの対象となる代表的な疾患や障害像を通じて、障害学、診断学、治療学について授業を実施する。				
【到達目標】				
・リハビリテーションの対象となる代表的な疾患や障害について説明できる ・リハビリテーションの実施に必要な各種評価や治療的介入について説明できる				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校指定の書籍と作成した資料を使用する		授業実施内容の学習を行う		
回	概 要	回	概 要	
1	リハビリテーションの理念と対象	16	介護保険制度	
2	リハビリテーション医学の関連職種	17	高齢者のリハビリテーション1	
3	リハビリテーション障害学と治療学1	18	高齢者のリハビリテーション2	
4	運動器のリハビリテーション1	19	リハビリテーション治療技術1	
5	運動器のリハビリテーション2	20	リハビリテーション治療技術2	
6	運動器のリハビリテーション3	21	リハビリテーション治療技術3	
7	リハビリテーションの評価1	22	リハビリテーション治療技術4	
8	リハビリテーションの評価2	23	リハビリテーション障害学と治療学4	
9	リハビリテーションの評価3	24	リハビリテーション障害学と治療学5	
10	リハビリテーションの評価4	25	リハビリテーション障害学と治療学6	
11	リハビリテーション障害学と治療学2	26	リハビリテーション障害学と治療学7	
12	リハビリテーション障害学と治療学3	27	リハビリテーションの実際1	
13	障害の階層性（ICF、ICIDH）	28	リハビリテーションの実際2	
14	リハビリテーションと福祉/障害者スポーツ	29	リハビリテーションの実際3	
15	福祉法と医療保険制度	30	リハビリテーションの実際4	
【評価方法】				
前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、総合試験にて評価する				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔道整復術の適応		3	島谷 蘭子	前期	2 (30)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
本授業を通して、医療現場における症状やその病態特性を理解し、特に救急現場や外傷時に適切な初期対応、必要に応じて医療機関への搬送などの適切な処置ができるように学習する。					
【到達目標】					
上記学習と応用					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
医療の中の柔道整復、標準整形外科、year note					
回	概 要		回	概 要	
1	2,A 内臓疾患の投影を疑う疼痛		16		
2	3,B 腰痛を伴う疾患		17		
3	4,C.D 化膿性の炎症、軟部組織の圧迫損傷		18		
4	3 血流障害を伴う損傷		19		
5	4 末梢神経損傷を伴う損傷		20		
6	授業 1－5復習		21		
7	5 脱臼骨折 + 中間テスト①		22		
8	8 意識障害を伴う損傷		23		
9	6 外出血を伴う損傷		24		
10	9 脊髄症状のある損傷		25		
11	授業 7－10 復習		26		
12	7 病的骨折および脱臼 + 中間テスト②		27		
13	10 呼吸運動障害を伴う損傷、11 内臓損傷の合併が疑われる損傷		28		
14	12 高エネルギー外傷／ショックの病態		29		
15	授業 12－14復習		30		
【評価方法】					
授業 1、7、12 以外は毎回、小テスト＋解説を行う、小テストは評価に含めない。					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
関係法規	3	島谷 タ美	通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
医療の一端を担う柔道整復師は医療制度の中で医事法規、社会保障制度を十分理解し、その職責をまっとうすること。				
【到達目標】				
柔道整復師は、医学的知識の習得はもとより、医療制限全般に係わる法令を熟知すること。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
関係法規（医歯薬出版）		法律は難しい言語が多い復習すること臨む		
回	概 要	回	概 要	
1	I 序論、法の意義 柔道整復の業務に必要な法を学ぶ成文法の種類、優劣順序	16	第6章雑則 施術所の名称制限について理解する	
2	インフォームドコンセント 概要と必要性理解する、医療事故とリスクマネジメント等	17	第7章罰則 罪刑法定主義について理解する。各罰則について理解する	
3	II 柔道整復法とその関連内容 柔道整復師法の目的を理解させる	18	第7章罰則 両罰規定について理解する	
4	第1章総則 定義の説明	19	第8章指定登録機関と指定試験機関の規定を知る	
5	第2章免許 柔道整復師免許の意義、効力について理解する	20	第9章免許の特例について知る	
6	第2章免許 免許を受ける為の要件を理解し説明出来るように	21	III 関係法規 医師法歯科医師法 医師法の概要が説明出来る。医師の免許と業務について	
7	第2章免許 免許証及び免許証明書各種申請方法について理解する	22	A 医療従事者の資格法 医療従事者の業務の差異を知る	
8	第2章免許 各簿登録について理解する。行政手続法による行政処分について	23	B 医療法 医療法の概要について説明出る。 医療制限について理解する。病院等の定義を知る。	
9	第3章柔道整復師国家試験 国試の内容、実施、方法	24	B 医療法 広告の制限、医療安全管理、医療機関の開設、休止。	
10	第3章柔道整復師国家試験 国家試験資格について理解する。	25	C 社会福祉関係法規 社会福祉法の概要を知る。 業務遂行に当たり社会福祉の意義を説明出来る。	
11	第4章業務 柔道整復師の業務、範について説明することができる	26	D 社会保険関係法規 健康保険法と国民健康法の差異を理解する。介護保険。	
12	第4章業務 施術の制限について説明。医師の同意・守秘義務を理解する	27	E その他関係法規 個人情報保護の概要と定義を知る	
13	第5章施術所 施術所の開設、休止等の要件を知る	28	E 個人情報の適切な取扱いについてガイドラインを理解する。	
14	第5章施術所 施術所の構造設備基準を知る	29	日本国憲法（抜粋）（第3章）国民の権利及び義務理解度を深める	
15	第6章雑則 広告制限について理解する	30	総復習	
【評価方法】				
評価は、前期・後期 学則規定に準ずる				

2025年度 シラバス				仙台接骨医療専門学校		
科目名		学年	講師名		開講区分	単位数
公衆衛生学		3	大沼 英子		通年	2 (60)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）						
『公衆衛生学』に関する統計を、ただ単に数字の推移をみるのではなく、その背景にある保健医療や社会環境をしっかりと理解し、読み解けるようにする。						
【到達目標】						
『公衆衛生学』に興味をもち、柔道整復師として必要な『衛生学・公衆衛生学』の基本的な知識の習得を行い、地域社会に貢献できるようにする。						
【使用教材、参考文献等】				【準備学習・時間外学習】		
「衛生学・公衆衛生学」鈴木庄亮ほか著 南江堂				次の講義のポイントになる図・表を予習する。日々のニュースからも公衆衛生に関する情報を得る。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	母子保健①			16	衛生行政と保健医療の制度②	
2	母子保健②			17	衛生行政と保健医療の制度③	
3	学校保健①			18	医療の倫理と安全の確保①	
4	学校保健②			19	医療の倫理と安全の確保②	
5	産業保健①			20	疫学①	
6	産業保健②			21	疫学②	
7	産業保健③			22	国家試験対策①	
8	成人・高齢者保健①			23	国家試験対策②	
9	成人・高齢者保健②			24	国家試験対策③	
10	成人・高齢者保健③			25	国家試験対策④	
11	精神保健①			26	国家試験対策⑤	
12	精神保健②			27	国家試験対策⑥	
13	地域保健と国際保健①			28	国家試験対策⑦	
14	地域保健と国際保健②			29	国家試験対策⑧	
15	衛生行政と保健医療の制度①			30	国家試験対策⑨	
評価法	定期試験および中間テスト、チェックテスト等に加え、出欠、授業態度などを含め総合的に評価を行う					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔道実技Ⅲ		3	大久保 貴博	前期	1 (30)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院(2004年4月～2019年3月)、おおくぼ整骨院(2019年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)					
・ 正しく大きな回転の前回り受身の練習 ・ 投の形の理合いと正しい技ができるよう練習。 ・ 約束乱取りの練習。 ・ 認定実技の立ち回りの練習。 ・ 柔道に関する国家試験問題の傾向と対策					
【到達目標】					
投の形、約束乱取の習得 ・ 認定実技審査の流れを理解する。 ・ 国家試験に向けて柔道の理念、歴史、ルールなどを理解					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
回	概 要		回	概 要	
1	礼法、受け身、浮落		16		
2	礼法、受け身、浮落、背負投		17		
3	礼法、受身、背負投、肩車		18		
4	礼法、受身、肩車、浮腰		19		
5	礼法、受身、浮腰、払腰		20		
6	礼法、受身、払腰、釣込腰		21		
7	礼法、受身、釣込腰、送足払		22		
8	礼法、受身、送足払、支釣込足		23		
9	礼法、受身、支釣込足、内股		24		
10	礼法、受身、内股、約束乱取		25		
11	礼法、受身、投の形復習、約束乱取		26		
12	礼法、受身、投の形復習、約束乱取		27		
13	柔道の国試対策		28		
14	柔道の国試対策		29		
15	柔道の国試対策		30		
【評価方法】					
・ 正しい礼法、受身、投げの形ができるか。 ・ 約束乱取りができるか。					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
基礎柔整Ⅲ		3	穂積 知弥	通年	2 (60)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院（2020年、4月～）					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
総論の復習を行いながら各論との繋がりを学ぶ。					
【到達目標】					
国家試験に対応した知識を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復理論・実技書			解剖学の知識の復習		
回	概 要		回	概 要	
1	骨組織		16	関節軟骨損傷	
2	骨折分類①		17	筋損傷①	
3	骨折分類②		18	筋損傷②	
4	骨折分類③		19	腱損傷①	
5	骨折症状①		20	腱損傷②	
6	骨折症状②		21	神経損傷①	
7	骨折合併症①		22	神経損傷②	
8	骨折合併症②		23	神経損傷③	
9	骨折合併症③		24	診察	
10	小児・高齢者骨折 治療過程①		25	治療法	
11	小児・高齢者骨折 治療過程②		26	後療法 手技・運動療法	
12	関節損傷		27	後療法 物理療法①	
13	脱臼①		28	後療法 物理療法②	
14	脱臼②		29	外傷予防	
15	靱帯損傷		30	痛みのメカニズム	
【評価方法】					
定期試験					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅢA	3	穂積 知弥	通年	2 (60)
【実務経験】				
仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2020年、4月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
1・2年生で学習した骨折・脱臼・軟部組織損傷を復習しつつ 認定実技・国家試験に対応できる知識を習得する				
【到達目標】				
国家試験にむけて内容を理解する。				
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】	
柔道整復学理論・実技書			授業の復習	
回	概 要		回	概 要
1	前腕近位端部骨折		16	腱板損傷・上腕二頭筋腱損傷
2	前腕骨骨幹部骨折		17	上腕骨遠位端部骨折
3	鎖骨骨折		18	手根骨骨折
4	上腕骨近位端部骨折		19	手関節以降の脱臼
5	上腕骨近位端部骨折		20	肩関節部の軟部組織損傷
6	上腕骨骨幹部骨折		21	肩関節部の軟部組織損傷
7	前腕骨遠位端部骨折		22	肘関節部の軟部組織損傷
8	前腕骨遠位端部骨折		23	前腕部の軟部組織損傷
9	中手骨骨折		24	前腕部の軟部組織損傷
10	胸鎖・肩鎖関節脱臼		25	前腕以下の軟部組織損傷
11	肩関節脱臼		26	末梢神経障害
12	肩関節脱臼		27	末梢神経障害
13	肘関節脱臼		28	練習問題
14	肘関節脱臼・肘内障		29	練習問題
15	前腕以下の脱臼		30	練習問題
【評価方法】				
定期試験				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅢB	3	佐藤 真希	通年	2 (60)
【実務経験】				
岩佐接骨院（1998年4月～2002年 3 月）、仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2002年 4 月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷、手部骨折を学ぶ。 国家試験を踏まえ解剖学、外科学、整形外科の含み履修する。				
【到達目標】				
運動器と神経、脈管の理解と損傷による症状、施術がわかる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校協会配布教科書 柔道整復理論・実技書		次回講義内容に必要な解剖学の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	指骨の骨折①	16	股関節軟部組織損傷	
2	指骨骨折②	17	大腿部軟部組織損傷	
3	指骨骨折③	18	膝関節軟部組織損傷①	
4	骨盤骨骨折	19	膝関節軟部組織損傷②	
5	大腿骨骨折①	20	下腿軟部組織損傷①	
6	大腿骨骨折②	21	下腿軟部組織損傷②	
7	膝蓋骨骨折	22	足部軟部組織損傷①	
8	下腿骨骨折①	23	足部軟部組織損傷②	
9	下腿骨骨折②	24	足部軟部組織損傷③	
10	足関節果部骨折	25	国家試験対策	
11	足根骨・足趾骨折	26	国家試験対策	
12	股関節脱臼	27	国家試験対策	
13	膝蓋骨脱臼	28	国家試験対策	
14	膝関節脱臼/足部の脱臼	29	国家試験対策	
15	下肢神経傷害	30	国家試験対策	
【評価方法】				
中間試験、定期試験結果のみ				

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床柔整ⅢC	3	佐藤 真希	通年	1 (30)
【実務経験】				
岩佐接骨院（1998年4月～2002年 3 月）、仙台接骨医療専門学校付属接骨院（2002年 4 月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
頭部・体幹の骨折、脱臼、軟部組織損傷を学ぶ。 国家試験を踏まえ解剖学、外科学、整形外科学の含み履修する。				
【到達目標】				
頭部体幹の運動器と神経、脈管の理解と損傷による症状、施術がわかる。				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
学校協会配布教科書 柔道整復理論・実技書		次回講義内容に必要な解剖学の復習		
回	概 要	回	概 要	
1	頸部軟部組織損傷	16		
2	胸郭出口症候群	17		
3	胸部軟部組織損傷	18		
4	肋骨骨折－ 1	19		
5	肋骨骨折－ 2	20		
6	胸骨骨折	21		
7	顎関節解剖 脱臼	22		
8	顎関節脱臼	23		
9	顎関節症	24		
10	脊椎骨折－ 1	25		
11	脊椎骨折－ 2	26		
12	脊椎脱臼	27		
13	頭部外傷－ 1	28		
14	頭部外傷－ 2	29		
15	国家試験対策 復習	30		
【評価方法】				
中間試験、定期試験結果のみ				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔道整復術適応の臨床的判定		3	島谷 蘭子	後期	2 (30)
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
医用画像X線読影、超音波観察装置を用いた実際の操作・読影など、理解できるように実践形式で進めていく。 また、臨床で遭遇する様々な症例に対して、外傷に類似した症状を呈する疾患の判別や外傷に潜んでいる危険な兆候を見逃すことなく、日常業務で患者を危険に曝さないための能力を目指す。					
【到達目標】					
柔道整復術の適応について学ぶ。臨床所見から判断して、施術の適する損傷と適さない損傷を的確に判断できる能力を身につける。また、安全に柔道整復術を提供するための医用画像を理解する知識と能力を身につける。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
(社) 全国柔道整復学学校協会 施術の適応と医用画像の理解			次回の予習、授業内容の復習。		
回	概 要		回	概 要	
1	柔道整復術の適否を考える		16		
2	損傷に類似した症状を示す疾患		17		
3	血流障害を伴う損傷		18		
4	末梢神経損傷を伴う損傷		19		
5	脱臼骨折		20		
6	外出血を伴う損傷		21		
7	病的骨折および脱臼		22		
8	意識障害を伴う損傷		23		
9	脊髄症状のある損傷		24		
10	呼吸運動障害を伴う損傷		25		
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷		26		
12	高エネルギー外傷		27		
13	医用画像の理解①		28		
14	医用画像の理解②		29		
15	医用画像の理解③		30		
【評価方法】					
定期試験（出席率・受講態度を総合的に含めて評価する）					

2025年 シラバス				
科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅢA	3	高橋 怜往	通年	2（60）
【実務経験】				
仙台接骨医療専門学校（2008年4月～2024年3月）、修心接骨院（2024年4月～）				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
認定実技試験のスムーズな実施を目的とする。骨折・脱臼の整復と固定、軟部組織の検査法、テーピングを行う。また、誤った施術により身体に悪影響を及ぼす可能性があることをしっかりと自覚させる。				
【到達目標】				
スターし、骨折・脱臼、軟部組織損傷を理論的に理解し、損傷程度を見極めたうえで、整復、固定、後療法の進				
【使用教材、参考文献等】		【準備学習・時間外学習】		
全国柔道整復学学校協会 柔道整復学（理論編・実		次回の予習、授業内容の復習。		
回	概 要	回	概 要	
1	鎖骨定型的骨折	16	膝関節側副靱帯損傷	
2	肩鎖関節上方脱臼	17	十字靱帯損傷	
3	上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折	18	半月板損傷	
4	肩関節前方烏口下脱臼	19	下腿三頭筋損傷（肉ばなれ）	
5	肘関節後方脱臼、肘内障	20	足関節外側靱帯損傷	
6	コーレス骨折	21	膝関節内側側副靱帯損傷（Xサポートテープ固定）	
7	第5中手骨頸部骨折	22	足関節外側靱帯損傷（バスケットウィーブテープ固定）	
8	第2指PIP関節背側脱臼	23	足関節外側靱帯損傷（フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定）	
9	下腿骨幹部骨折	24	骨折整復復習	
10	アキレス腱断裂	25	骨折固定復習	
11	肋骨骨折	26	脱臼整復復習	
12	肩腱板損傷	27	脱臼固定復習	
13	上腕二頭筋長頭腱損傷	28	軟部組織損傷復習	
14	ハムストリングス損傷（肉ばなれ）	29	テーピング固定復習	
15	大腿四頭筋打撲	30	骨折・脱臼・軟部組織損傷・テーピングまとめ	
【評価方法】				
定期試験（出席率・受講態度を総合的に含めて評価する）				

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
柔整実技ⅢB		3	江戸 敬之	通年	2 (60)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校附属接骨院(2010年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)					
認定実技審査項目(診察検査・固定：軟部組織損傷)の理論の復習を行い、診察、検査、固定の実技を行う。					
【到達目標】					
認定実技審査と国家試験必修問題に対応できる知識と技術を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論偏、交代固定学			毎授業の復習、実技練習		
回	概 要		回	概 要	
1	認定実技審査について		16	固定法・膝関節内側側副靱帯損傷(テーピング)	
2	認定実技審査・国家試験必修問題について		17	固定法・アキレス腱断裂	
3	診察検査法・肘内障		18	診察検査法・復習	
4	診察検査法・肩腱板損傷		19	固定法・復習	
5	診察検査法・上腕二頭筋長頭腱損傷		20	国家試験必修問題対策 理論・実技①	
6	筋損傷、筋打撲・肉離れ、HQ比		21	国家試験必修問題対策 理論・実技②	
7	診察検査法・下腿三頭筋損傷(肉離れ)		22	国家試験必修問題対策 理論・実技③	
8	診察検査法・ハムストリングス損傷(肉離れ)		23	国家試験必修問題対策 理論・実技④	
9	診察検査法・大腿四頭筋打撲		24	国家試験必修問題対策 理論・実技⑤	
10	診察検査法・膝関節側副靱帯損傷		25	国家試験必修問題対策 理論・実技⑥	
11	診察検査法・膝関節十字靱帯損傷		26	柔道整復学・理論・実技 復習①	
12	診察検査法・膝関節半月板損傷、臨床実習前施術試験		27	柔道整復学・理論・実技 復習②	
13	診察検査法・足関節外側側副靱帯損傷		28	総復習・国家試験対策演習問題・解説①	
14	固定法・足関節外側側副靱帯損傷(局所副子)		29	総復習・国家試験対策演習問題・解説②	
15	固定法・足関節外側側副靱帯損傷(テーピング)		30	総復習・国家試験対策演習問題・解説③	
【評価方法】					
前期の中間・定期試験、後期の中間・卒業試験、授業内の実技試験で評価を行う。					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
高齢者の外傷予防		3	江戸 敬之	後期	1 (30)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校付属接骨院(2010年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）					
高齢者の特徴、高齢者の外傷の特徴・外傷予防、機能訓練指導員、機能訓練について学習する。					
【到達目標】					
高齢者の外傷の特徴・外傷予防・機能訓練・機能訓練指導員についての知識を習得する。					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
柔道整復学理論偏、柔道整復師と機能訓練指導員			毎授業の復習		
回	概 要		回	概 要	
1	高齢者の特徴		16		
2	高齢者の外傷の特徴		17		
3	高齢者の外傷予防		18		
4	機能訓練、機能訓練指導員とは		19		
5	介護保険と機能訓練指導員		20		
6	フレイル、サルコペニア		21		
7	ロコモティブシンドローム		22		
8	転倒のメカニズム		23		
9	機能訓練の評価		24		
10	機能訓練の手順		25		
11	機能訓練の実際		26		
12	歩行補助具		27		
13	高齢者の外傷予防トレーニング①		28		
14	高齢者の外傷予防トレーニング②		29		
15	復習・演習問題・解説		30		
【評価方法】					
後期中間・定期試験、冬休みの課題で評価する。					

2025年 シラバス					
科目名		学年	講師名	開講区分	単位数
競技者の外傷予防		3	大久保 貴博	後期	1 (30)
【実務経験】					
仙台接骨医療専門学校付属接骨院(2004年4月～2019年3月)、おおくぼ整骨院(2019年4月～)					
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載)					
運動生理学を理解するとともに、競技別の外傷発生要因を理解し、受傷メカニズム、外傷予防トレーニングを実技を交えながら理解、習得を目指す。					
【到達目標】					
競技者の外傷施術後、外傷予防、再発予防トレーニングなどを実施できるよう知識、技術を獲得					
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】		
競技者の外傷予防 (学校協会監修)					
回	概 要		回	概 要	
1	運動が生体に与える影響		16		
2	運動とエネルギー代謝		17		
3	運動と骨・筋		18		
4	呼吸・循環		19		
5	運動とホルモン		20		
6	競技者の運動生理学的特徴		21		
7	競技者の外傷予防／発生要因		22		
8	外傷予防対策／メディカルチェック		23		
9	外傷予防に必要なコンディショニング法と実際		24		
10	柔道における肩関節外傷予防		25		
11	水泳における体幹傷害予防		26		
12	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防		27		
13	サッカーにおける足関節の外傷予防		28		
14	成長期の外傷予防		29		
15	高齢者の外傷予防		30		
【評価方法】					
・ 中間試験、卒業試験にて評価					
・ 四択問題 (複数回答あり。)					

2025年度 シラバス				
授業科目名	学年	講師名	開講区分	単位数
臨床実習	3	島谷・佐藤・江戸・長谷川・穂積・穴久保ほか	通年	1 (45)
【実務経験】 接骨院にて柔道整復師として勤務				
【授業の学習内容と心構え】（実務経験のある講師・教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載）				
柔道整復師として必要な知識と技能を習得するべく、認定実技審査の審査項目を中心として、実際の現場で行われる評価・施術（整復、固定、後療法）・指導管理までの柔道整復術の習得を目指す。その際に患者への接遇や助手への指示もあわせて学んでいく。1， 2 年次の臨床実習の総復習も行っていく。 また、外部の接骨院への実習も行う。				
【到達目標】				
これまでの実技や実習で習得した知識や技術を応用し、臨床現場で通用するレベルに到達する。 実際の現場で、実習指導者の元、施術の介助を行うことができるようになる。				
【使用教材、参考文献等】			【準備学習・時間外学習】	
柔道整復学理論編改訂第 7 版・配布資料				
回	授業概要		備考	
1	1. 2 年生の総復習		左記 4 単元を 45 時間で行う	
2	認定実技審査項目を中心とした柔道整復術の総合実習			
3	外部実習前指導			
4	外部接骨院における実習			
評価法	レポート、実習日誌等で行う。			